

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	住宅設計における数値シミュレーション活用小委員会	主 査 名：福田 展淳 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：中島 裕輔
設 置 期 間	2017 年 4 月～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで、研究者が開発し精度の向上がはかれてきた環境工学分野での数値シミュレーションを用い、実際の設計の場や研究で活用する事例を取り上げ、活用事例を共有する。</li> <li>2. より有効な活用方法の可能性や設計や研究面での応用方法を検討する</li> <li>3. 委員会で共有する内容をホームページ化し、数値シミュレーションを活用できる場所を提供する</li> <li>4. 公開シンポジウム等で情報発信を行い、できるだけ分かり易く、数値シミュレーション活用事例を出版する。</li> </ol>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し 主査：福田展淳 (北九州市立大学) 委員：尾崎明仁 (九州大学)、高偉俊 (北九州市立大学)、中島祐輔 (工学院大学)、隈裕子 (湘南工科大学)、李明香 (立命館大学) 小畑拓未 (東畑建築事務所)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2018 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：作成中 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	小委員会で、活用事例を紹介し合う (3 月予定)。また、九州大学で行われた T H E R B for HAM の勉強会にて、情報共有のあり方などを話し合った。これらを情報発信する H P のコンテンツとして活用する。
委員会活動の問題点 ・課題	委員が東京、九州とまたがっており開催に際し旅費がかかり、委員会は東京 1 回 (予定) の開催となった。

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本委員会は、これまで、研究者が開発し精度の向上がはかられてきた環境工学分野での数値シミュレーションを用い、実際の設計の場や研究で活用する事例を取り上げ、より有効な活用方法の可能性や設計や研究面での応用方法を検討することを目的とする。最終的には、公開シンポジウム等で情報発信を行い、できるだけ分かり易くそれらの内容を出版という形で積極的に情報公開していくこととする。</p> <p><b>初年度</b>：住宅設計に活用可能なシミュレーション技術の状況把握  <b>2年度</b>：設計や研究面での活用事例の収集及び活用方法の検討、将来の可能性  <b>3年度</b>：シンポジウムなどで、議論の情報公開を行ない、出版企画書を作成し、委員が把握する内容や執筆分担者などの具体的な準備を行い、出版委員会への移行を目指す。</p> <p>初年度は、数値シミュレーションの利用法を共有するため、情報を共有するホームページの立ち上げ準備を行なった。また、THERB for HAM の利用方法を簡単に解説するビデオ教材を作成した。</p> <p>本年度は、昨年度と同様、数値シミュレーションの利用法を共有するため、情報を共有するホームページを立ち上げる。九州大学で行われた THERB for HAM の勉強会（7月、1月）で各大学から出された活用事例を参考に、利用方法を簡単に解説するパワーポイント資料を作成した。また、この勉強会で、ホームページでの情報共有のあり方などを話し合った（参加大学：九州大学、立命館大学、福岡大学、九州産業大学、北九州市立大学他）。また、掲載できるコンテンツについて議論した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。